

4 点検・評価に関する意見等

1 学識経験者

教育委員会が行った点検・評価の結果に関して、次の4名の方から意見や助言をいただきました。今後の施策や事業等の展開に活用してまいります。

澤田 慎也 氏（北海道苫小牧東高等学校 校長）

小笠原 正樹 氏（北海道苫小牧支援学校 校長）

高松 雅弘 氏（北海道私立幼稚園協会 苫小牧・日高支部）

藤島 豊久 氏（苫小牧市社会教育委員会 議長）

2 本報告書に関する御意見

頂いた御意見・御質問について、教育委員会の考え方と併せて次のとおり掲載します。

（一部、抜粋または要約しております）

（1）教育委員会の活動状況について

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>視察等について</p> <p>他市町村との情報交換や視察等は、教育委員の方々全員を対象に、研修の場として捉え、今後も実施していくべきと考えます。</p> <p>施設訪問内容が行事や式典中心となっていますが、保育・教育の現場に出向き、子どもの成長の様子や教育環境、教師や保育士の幼児児童生徒とのふれあいの姿を直に視察する機会を持つことも必要です。</p>	<p>教育委員としての職務遂行に必要な知識を得るためには、様々な研修の機会などを通じて不断の研鑽を積むことが重要ですので、今後も視察や研修の充実に取り組みます。</p> <p>また、実際の教育現場へも積極的に訪問して、授業や子供たちの様子を見学したり、教職員から話を伺う機会も設けたいと考えます。</p>

【その他御意見】

会議の開催状況について

- ・開催頻度及び議案案件については、概ね適切であると考えます。
- ・定例的に開催し、多様な案件について審議され適切でした
- ・議案などで取り上げている案件についても「苫小牧市学校教育推進計画」や「苫小牧市第六次生涯学習推進基本計画」に基づいた適切な内容であることを理解することができました。
議事録からは、市民の代表である教員委員の方々が教育行政に民意を反映させるため、課題意識を持ちながら、真摯な協議を行い、意思決定がなされていることが理解できました。
- ・同様に、総合教育会議において市長と教育委員会が市政や教育行政の様々な課題に対し、効率的且つ効果的に協議されていることが理解できました。

委員の活動状況について

- ・学校訪問や研修会、各種行事への参加について、市内外の教育現場の現状を把握し、今後の施策に生かすため、各種計画と関連付けた内容で適切に実施されたものと考えます。

昨年度より市内の全小・中学校がコミュニティ・スクールとなりました。地域と共に進める学校づくり、地域づくりには欠くことができない重要な施策かと思っておりますので、得られた情報をもとに、各校におけるより具体的な取組を期待しております。

(2) 計画の体系について

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>計画の体系について</p> <p>学校教育推進という考え方は、実は、生涯学習推進の考え方に含まれるべきと考えます。本来は、生涯学習（生涯教育）→（学校・社会・家庭教育）という理念があります。今後、構成を考える場合には参考にして下さい。</p>	<p>教育の概念はご指摘のとおりであります。</p> <p>本市では、学校教育分野を除いた生涯学習推進基本計画が策定されていたため、令和5年度から、新たに学校教育推進計画を策定し、現在の計画の位置づけとしました。</p> <p>学校教育の個別計画である「学校教育推進計画」とそれを除く「第6次生涯学習推進基本計画」を合わせて本市の教育振興の計画体系と整理させていただいておりますのでご理解ください。</p>
<p>施策項目について</p> <p>学校教育推進計画のテーマとして「15歳の苫小牧っ子」の文言が目を引きますが、やや唐突であることから、リード文の中で補説が必要と思えます。</p> <p>例として、「～社会の実現」を柱に、幼保こども園・小中学校の15年間の保育・教育を構想し、13の施策項目を設定します。</p>	<p>「15歳の苫小牧っ子」につきましては、苫小牧型小中連携教育「苫小牧オール9」の推進基本方針の記載など、いわゆるキャッチフレーズとして用いております。一般の方々に馴染みやすい構成や適切な表記に向けて、ご指摘いただいた点も含めまして、説明文やリード文の見直しの検討を行ってまいります。</p>

(3) 主要施策等の点検・評価について

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>施策1 確かな学力の育成</p> <p>2年連続でプラスの変化に乏しいことから、単元計画だけに課題があるとは思えません。まずは方策等に問題があるのか、問題点の再抽出と分析を実施してはいかがでしょうか。</p>	<p>児童生徒に確実に資質・能力を育成するためには、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが必要であると考え、子どもたちが何を学ぶか、どのように学ぶか、その視点を大切に単元計画を作成、実践を進めております。子どもたちは自らの学びの振り返りを通して、また、教師は指導と評価の一体化の観点から、学習の成果と課題を検証し、単元計画に基づく学習の進め方、指導支援の在り方など、改善点を次の学習に生かしております。今後も、質の高い学びの実現に向けて、教師と子ども双方の学びのデザイン力を高めてまいります。</p>
<p>施策2 これからの時代に求められる資質・能力の育成</p> <p>学校では ICT を活用した教育活動がスタンダードになってきました。児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、さらに取組を進めていただきたいと思います。そのためには児童生徒一人ひとりの実態や状況、教育的ニーズを把握した指導・支援が必要です。</p> <p>苫小牧市統一学力検査及び全国学力・学習状況調査の結果を踏まえたエビデンスに基づく授業の構築をお願いいたします。</p>	<p>本市では、苫小牧市統一学力検査及び全国学力・学習状況調査の結果を分析し、教育施策の成果と課題を検証しております。また、授業改善を図るための指導のポイントや、家庭学習の取組方法などについて発信し、学校における授業改善や、児童生徒の学習状況の改善等に役立てております。</p> <p>さらに、考察結果から浮かび上がった児童生徒の学び方の課題を改善するため、市教委から「見通す」「決定する」「協働する」「振り返る」の子どもが主語の4つの共通取組場面を適切に位置づけた授業改善策を示しております。</p> <p>今後につきましては、児童・生徒の資質・能力の育成のため、ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、これまで以上に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、授業改善の推進に努めてまいります。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>施策2 これからの時代に求められる資質・能力の育成</p> <p>ICT 機器の活用が使わないと評価が下がるとは思いませんので質問方法に問題があるのではないのでしょうか。使用した時間よりも、先生が有効に利用できたかあるいは生徒が満足できたかではないのでしょうか。</p>	<p>授業のねらいの達成に向けて、ICTを文房具のように活用しながら学ぶことが効果的であると考えます。現状として、ICTをよく活用する先生と苦手と感じていることから活用をためらう先生がおり、活用に差ができております。</p> <p>まずは、どの先生もICTを活用していくことが大切ですので、活用時間や活用の場面を推進指標とさせていただきます。</p> <p>ご指摘の通り、児童生徒の学びにおける効果的な活用については、重要な視点であることから、すべての先生方の活用頻度が高まった時点で、次の指標を設定することを検討してまいります。</p> <p>※本指標は独自のアンケート等ではなく、全国学力・学習状況調査の質問項目から適用しています。</p>
<p>施策3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成</p> <p>いじめの積極的認知、いじめ対策組織による組織的な対応、児童生徒が相談しやすい状況づくり等、いじめ対応の基本を踏まえた取組が実施されていると思います。一方、推進指標からは読み取ることができませんが、教職員一人ひとりが、「いじめはこの学校にも起こりうる」という意識をどれだけもって指導・支援にあたっているのか知りたいと思いました。</p>	<p>苫小牧市いじめ防止基本方針の各校の具体的な取組の項目では「いじめはどの子にも起こりうる問題であることから、全教職員がいじめ見逃しゼロの意識をもち、看過したり軽視したりすることなく、積極的にいじめを認知する。」ことを明記しております。大人の目には見えにくいといういじめ問題の特性から組織的に子どものサインを見逃さない体制を構築するとともに校内研修や学校いじめ対策組織での取組等を通し、いじめ防止に対する教職員一人ひとりの意識の向上を図っております。</p>
<p>施策3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成</p> <p>私の時代には男女を分けて名簿が作成されていたように思いますが活用とは何を指すのでしょうか。ジェンダー平等からの理由でしょうか。そうだとするとこの数値は納得できるかと思います。</p> <p>どの様なことがジェンダー平等の対象になるのか考えてみる必要があります。私の子どもの頃のように男女を分けることはよくないというのであれば先生方の負担は大きいと思います。いっそのこと女子を先にしては男子（男性）から意見を募るのはいかがでしょうか。子どもたち自身は今のことをどのように思っているのでしょうか。</p>	<p>ご指摘の通り、ジェンダー平等の観点から男女混合名簿の活用を指標としています。活用の例としては、児童生徒に学級全員の氏名を一覧にしたものを示す場合に男女混合の名簿を活用している学校があります。子どもたち自身がジェンダー平等に対してどのような見識をもっているかは図りかねますが、中学生を対象にしたジェンダー平等や多様性の尊重について考える内容の出前講座を開催しており、生徒個々の理解深化に努めております。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>施策3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成</p> <p>児童生徒も情報化社会で生きています。小中学校において、いわゆる「ネットパトロール」は実施されているのでしょうか。全道的に、SNSを介した児童生徒間トラブルを耳にします。もし未実施のようでしたらその取組を望みたいです。</p>	<p>「ネットパトロール」に関しましては、北海道教育委員会が毎年度委託業者に依頼し、全道を対象に実施しております。毎月の報告書を通じ、児童生徒への情報モラル教育や保護者への啓発を行っております。</p>
<p>施策3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成</p> <p>今後の取組では「こころの授業」では幅広い領域や講師の招聘を想定していますが、児童生徒にとって一番身近な教師の人間性に触れる工夫も必要です。</p> <p>例えば、教師自らの体験を収集し、説話を通して人間としての生き方を語り掛ける工夫も必要です。テレビ番組の「しくじり先生」から生き方を学ぶことも多く、参考にしてほしい。</p>	<p>ご指摘の通り、身近な先生の実体験からの説話は大変児童生徒の心に響くと考えます。そのようなことから、「こころの授業」に限らず、道徳科の授業において授業の終末の場面で教師による説話をしたり、教師が子どもたちに伝えたい言葉等を紹介したりすることを推奨しています。</p>
<p>施策3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成</p> <p>子どもたちのわずかな変化を見逃さない知識を得るために、対策組織の益々の研修強化を望みます。</p>	<p>苫小牧市いじめ防止基本方針の中で、各学校に「いじめの防止に関する組織」を置くことを明記し、いじめの早期発見・早期対応につなげております。また、市としてもいじめ防止の啓発・研修を行うことで、いじめに対する理解を深め、教職員の指導力の向上を図るよう努めております。今後につきましても市や学校での研修を通して、いじめの早期発見・早期対応に向けた生徒指導の充実を図ってまいります。</p>
<p>施策4 体力向上・健康教育の充実</p> <p>体力合計点は、全国平均を上回っていますが、引き続き、学校での取組、学校と家庭が連携した取組を推進し、望ましい運動習慣や生活習慣の形成に向け、取組を推進していただきたいです。児童生徒が運動に興味をもち、自ら取り組むためには、教師の指導力向上に加え、ゲストティーチャー（アスリート先生等）を活用した授業も有効です。</p>	<p>本市では、道の体力向上推進事業を活用し、小・中学校にそれぞれ1名ずつ実践的指導力に優れた教員を配置し、指導方法等の工夫・改善等に関する実践研究の推進やその成果等の普及等を通して、市内の教職員の指導力向上や体力向上の取組の充実を図っております。さらに、中学校では、スポーツに携わる経験豊富な講師を招いての生徒及び保護者向けの講演会、小学校ではアイスホッケーやバスケットボール、サッカー等のプロ選手による体育指導を実施している学校もあります。子どもたちの運動に関する興味・関心を高めるために、引き続きゲストティーチャー等の効果的な活用を進めてまいります。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>施策4 体力向上・健康教育の充実</p> <p>「朝食を毎日食べている」児童生徒の割合で、中学生の数値が昨年よりも下がっています。栄養教諭による巡回指導の継続や家庭との一層の連携を図りながら、食育指導の充実を図るとともに、喫食率の向上に努めていただきますよう、お願いします。</p>	<p>朝食喫食率の向上については、児童生徒への指導のみならず、家庭の理解が重要であると考えております。今後も引き続き、学校や家庭と連携を図りながら、食に関する指導及び情報発信等を行い、食育の推進に取り組んでまいります。</p>
<p>施策4 体力向上・健康教育の充実</p> <p>運動することが好きな子どもだけを対象にしているのでしょうか。嫌いな子どもが好きになるような方策（ガイド）はないのでしょうか。</p>	<p>運動が好きな子どもたちだけを対象としているわけではなく、運動することが好きな子どもたちを育成するための体育・保健体育授業の改善・充実に努めております。研修講座や体育専科及びエキスパート教員による巡回指導を通して、運動の得意不得意に関係なく、すべての子どもが運動することを楽しみ、主体的に取り組みながら、技術の向上が図られるよう指導方法の改善・充実に努めております。</p>
<p>施策6 学校段階間の連携・接続の推進</p> <p>将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合で、中学生の数値が低くなっています。なぜ減少しているのかを分析し、分析結果にもとづいた、キャリア教育の推進が必要です。</p>	<p>令和5年度全国学力・学習状況調査において、「将来の夢や目標を持っている」と回答した中学生の割合は、小学生と比べると低くなっておりますが、小・中学校ともに全国平均を上回る結果となっております。</p> <p>各校においては、キャリア・パスポートを活用することで、児童生徒が自己理解を深め、自分のよさや可能性を知ったり、自らの生き方について前向きに考えたりできるようにしております。今後につきましては、小学生の時に思い描いていた夢や目標が持続していくよう、小学校と中学校が連携し、9年間を見通した学習を教育課程に位置付けるなど、キャリア教育のさらなる推進に努めてまいります。</p>
<p>施策6 学校段階間の連携・接続の推進</p> <p>小中連携研究指定校の取組等、学校段階間の連携・接続に向けた具体的な取組は評価できます。しかしながら推進指標にあるように、近隣の小中学校と、教育課程に関する共通の取組を「よく行った」と回答した学校の割合を見ると、中学校の数値が昨年度よりも大きく下回っています。この結果に対する分析を行い、今後の取組の具体につなげていただきたいと考えます。</p>	<p>令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、これまで自粛していた乗り入れ授業が増加し、また共通取組事項の徹底による授業改善に研究の重点を置いた中学校区エリアが多かったと推察しております。一方で、継続または新規でカリキュラム接続の研究を行っているエリアもあることから、今後も9年間の学びの連続性を生かした取組・研究の充実・推進に努めてまいります。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>施策6 学校段階間の連携・接続の推進</p> <p>夢や目標は将来の職業選択のために材料を与えるだけではなく我々大人自信が夢の継承を行い、どのように子どもたちに伝えていくのが重要で、学校教育、家庭教育、社会教育との連携が必要であると考えます。特に小学生で重要なのは社会教育であり、体験活動の中から子どもたち自身が将来の夢や目標の芽を持てるように工夫しなければなりません。大人が場を提供しただけのプログラムでは押しつけになってしまい何も残らないのではないのでしょうか。キャリア教育にも職場見学や職場体験の他に、ほんもの体験など様々な角度から考える事のできるレシピが必要だと思います。</p> <p>夢や希望は子供たちの経験や周囲の大人や友人たちの経験から生まれるものと思います。その中でも体験活動はたいへん重要であり、また将来の進路に芽生える時期は子どもによってかなりの差があります。体験活動を計画する上で子どもたちが興味を持つことから入口とすべきであり、今私たちに求められていることの一つは、大人から子どもたちへの“夢を育てる継承”をしていくことです。</p>	<p>令和5年度全国学力・学習状況調査において、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合は令和4年度から減少したものの、全国平均を上回っております。</p> <p>小・中学校間でのキャリア・パスポートの引き継ぎ・活用により、児童生徒が自己理解を深め、自分のよさや可能性を知ったり、自らの生き方について前向きに考えたりできるよう支援しております。また、総合的な学習の時間や特別活動などの時間では、児童生徒が自ら選択した地域企業や施設の見学を行ったり、必要に応じて地域の外部講師を招いたふろさと教育の授業が行われたりしております。</p> <p>今後につきましても、本物と出会い、直接体験することを通して、児童生徒の知的好奇心や学習意欲を高め、多様な生き方や職業、夢などについての視野が広がるような取組を進めてまいります。</p>
<p>施策6 小中高連携の取組や活動について</p> <p>中学校区に限らず、教育局（エビデンス会議）との連携のもと小中高連携の取組や活動について、より一層の充実を図っていくべきと考えます。</p> <p>本市の規模は大きく、また地域性からなのか、小中高の連携が薄いと考えています。大学等の高等教育機関が少ない地域だからこそ、市教委が調整役となりながら、縦（小中高の学校）、横（企業や団体等）の関係のハブとして機能していただけることを期待しています。</p>	<p>小中高連携の取組につきましては、インターシップや教育支援学生ボランティアなどの交流や、各中学校では生徒対象に高等学校の先生を招いて、高等学校の説明をいただくことや市内各高等学校のオープンスクールや体験会に地元の中学生在積極的に参加しております。また、胆振教育局主催のエビデンスに基づく資質・能力育成事業管内E B E協議会において小中高の一体的な学力向上に向けた協議等、さまざまな分野で開催されている会議や研修会等において、意見を交わす機会が増えてきております。今後もさらなる連携した取組について検討してまいります。</p>
<p>施策7 不登校児童生徒への支援の充実</p> <p>不登校の児童生徒の学びを保障するため、ICTを活用したオンライン授業の実施は、有効な手立ての一つかと思えます。</p> <p>一方で、放課後登校等に取り組んでいるケースがどの位あるのか気になりました。</p>	<p>放課後登校を行っているケースはありますが、放課後登校における調査の実績はないため人数や実態等について把握しておりません。今後もICTの活用も含めて不登校児童生徒の学びの保障や社会的自立に向けた指導・支援に向けた取組を推進してまいります。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>施策7 不登校児童生徒への支援の充実</p> <p>不登校児童が急激に増加していることから、今後の取組の具体化を望みます。誕生から義務教育終了年までの15年間をトータルに見通し、発達段階に応じた発達課題を意識した保育・教育の在り方を喫緊に検討する必要があります。</p>	<p>不登校の要因は多岐に渡り、対応に苦慮するケースもあることから子どもたちにとって「これかならできるかも」と一歩足を踏み出せるようなきっかけが大変重要であります。教育支援センター、フリースクール等民間施設の活用やオンライン活用など、これまでの支援を充実させるとともに、各児童生徒の発達段階に応じた支援につきましても幼・小連携の充実を図り、配慮して行っているところではございますが、よりよい方策について検討してまいります。</p>
<p>施策7 不登校児童生徒への支援の充実</p> <p>教員を孤立させないとあるが、文科省の報告書によると不登校の原因には教師の資質も原因の一つとされています。よって質の高い研修が必要と思えますが分析だけでなく予防と解決も含めて欲しいです。</p> <p>(今後の取組み) 検討ばかりではなく実践という明記が必要。</p>	<p>本市では小・中学校の教諭と担当指導主事5名を構成メンバーとして令和6年度から不登校対策研究委員会を立ち上げております。不登校児童生徒の要因は多岐に渡っており、一人一人のニーズに適した支援が求められることから、児童生徒の不登校状況の段階や実態に応じた効果的な支援について調査・研究し、効果が期待できる支援策を市内教職員に発信するなど、日常の実践につながる支援の充実を図ってまいります。</p>
<p>施策7 不登校児童生徒への支援の充実</p> <p>フリースクールを運営している組織において、子どもたちを取り巻く社会が急速に変化していることはいうにも及ばないと思えますが、長く続けていくためにもスクール同士の情報交換会を設けてはどうでしょうか。</p>	<p>令和6年5月に「苫小牧市公的機関及びフリースクール等民間施設情報交換会」を開催し、市内フリースクール等民間施設の代表者、教育支援センター指導員、及びスクールソーシャルワーカー並びに教育委員会職員が一同に会し、不登校児童生徒の支援の在り方や学校、各関係機関との情報共有及び連携体制について意見を交流しております。今後も継続的に関係機関と連携するなどして、適切な支援の方策について検討してまいります。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>施策7 不登校児童生徒への支援の充実</p> <p>地域社会をよくするために何をすべきかを「考えたことがある」と答えた児童が増えたことは良いのですが設問の意味が漠然としていてわからない。何をすべきかを考えるだけでなく“問題を見つけて実際に実行したことがあるか”の方がよかったですのではないかと考えます。</p>	<p>コミュニティ・スクールの全小・中学校導入などにより地域との活動が活性化していることから、児童生徒の地域や社会に対する愛着が芽生え、地域社会に貢献したいという意欲が向上したものと解釈しております。質問項目を変更する点におきましては、児童生徒の地域社会への参画状況を鑑みながら、検討してまいります。</p> <p>※本指標は独自のアンケート等ではなく、全国学力・学習状況調査の質問項目から適用しています。</p>
<p>施策10 教育環境・学校施設・設備の充実</p> <p>部活動の地域移行については、市内高校側に向け、市としての見通しや方針の情報をいただきながら、連携を図っていただけると幸いです。</p>	<p>令和6年3月に「とまこまい型部活動地域移行ビジョン」を策定し、部活動の地域移行に関して苫小牧市としての方針をお示しし、令和6年7月に小学5・6年生、中学1・2年生の保護者を対象に説明会を実施し、説明会資料や質問、意見についてHPに掲載したところでございます。</p> <p>最新情報は随時更新する予定でございますが、部活動の地域移行について、共に連携を図る部分がございますら、ご協力いただけると幸いです。</p>
<p>施策11 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり</p> <p>赤ちゃん、絵本とびら事業を実施したとありますが、推進指標を見ると、R5年度は事業対象者への配付率が示されておきませんが、未実施ということでしょうか。</p>	<p>「赤ちゃん、絵本のとびら事業」につきましては、平成27年度から市内に住所のある0歳児とその保護者を対象に毎年実施しております。絵本の受け渡し方法は、読書関連施設等で受け取っていただく引換券方式を採用しており、引換期日は対象者が1歳を迎える月の末日までとしております。そのため、令和5年度の対象者への最終引換率は、令和6年度末をもって確定しますことから、推進指標にお示ししておりませんのでご理解願います。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>施策12 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり</p> <p>新たな人材バンクの検討とあります。人口減少に伴い、ボランティアや講師の減少にも対応できるような人材バンクの利用システムの作成を願います。</p>	<p>生涯学習課では、苫小牧アーティスト・バンクという、芸術家の登録ということで行っております。しかし、実際には生涯学習の指導者もご登録いただいているということもありますので、新たに生涯学習の人材バンクなどの検討を進め、これらを活用していくことで、人材を活用でき、学び・教えるという、学びの循環する生涯学習社会の構築に繋がると考えております。ご提案のボランティアにも対応できるシステムということですが、現在、苫小牧市ボランティアセンターなどで各種講座を行っておりますので、バンクの検討に当たってはこの部分にも留意しながら検討を進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>科学センター</p> <p>科学センターの今後の取組として、幼児期の発達に応じた新鮮な展示やワクワクする科学体験、空想広がるプラネタリウム視聴を通して、科学への芽生えと興味関心を高めることに努めてほしい。保育園・子ども園などの身近で充実した見学先として選ばれる施設の拡充を望みます。</p>	<p>科学センターでは、未就学児を対象としたものとして「プレスクール工作体験」などの工作教室を開催しております。また、パズルなどの木製のおもちゃで自由に遊んだり絵本を読んだりして楽しむことができる「あそびの森」というスペースを設けております。プラネタリウムにつきましては、幼稚園・保育園等の保育施設を対象に七夕特別投影を行っております。この投影は幼児向けに独自に作成した、七夕に関連する物語で、今年度も多くのこどもたちに楽しんでいただくことができました。</p> <p>工作体験などを通じて未就学児の科学に対する興味関心を引き出し、就学後も科学センターの利用促進の流れにつなげることが重要であると認識しております。そのためにも既存の教室等が単純な繰り返しにならないよう、ニーズを反映できるような内容を目指し、充実化に努めます。</p>

【その他御意見】

- ・各項目の表現及び評価、方向性については、概ね適切であると考えます（見開き1ページやP8のように見方を掲載しており、とても見やすく分かりやすいです）。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指し、共通取組事項を定め、全市一体となった取組を推進していることは評価できます。個々の教員の指導力向上に向けた各種取組も動画配信を活用する等、教員の働き方にも配慮した工夫が見られます。
- ・教員の授業力向上や授業改善に向けた指導・助言といった支援を行ってきたことは評価できま

す。授業づくりを考えた時、一人ひとりの児童生徒が、「わかる」「できる」「やりたい」といったことを実感できる授業は、子どもたちの主体的な学びにつながります。子どもたちにとって、「できる状況」を整えることで、子どもたちの「できること」が増えていきます。ICTの活用も含め、子どもたちが力を存分に発揮できる学習環境を整えていくという視点も加えながらの取組に期待します。

- ・AL Tの放課後児童クラブや幼稚園への派遣、小学生高学年のイングリッシュカフェなど、楽しみながら英語や異文化に親しみをもつ機会が増えてきたようです。
小学生への指導にあたっては、英語教育に関する専門性はもちろんです。早い段階から英語に慣れ親しむことで、中学校以降の学習にスムーズにつながっていくと考えます。小学校段階の外国語活動の充実と、小中9年間の確かな成長を目指した学びを構築していただくことに期待します。
- ・自己肯定感や自尊感情の高まり、多様な価値観があることへの理解が深まったことなど、取組の成果が現れていると思います。豊かな心の育成に課題とありますが、現在までの取組に加え、地域の企業と連携した職場体験、芸術鑑賞会、自然体験教室といった、体験活動を充実させていくことも、子どもたちの豊かな心の育成につながっていくものと思います。
- ・外部専門家との連携強化への取組も評価することができます。場合によっては児童相談所等の関係機関とも緊密に連携して「チーム」として対応する体制づくりの継続・充実に向けた取組に期待します。
- ・毎日提供される給食は、子どもたちにとってまさに「生きた教材」です。地元食材を活用したメニューやリクエスト給食、姉妹都市の学校とのオンライン交流は、子どもたちの食に対する興味関心を育てます。また、インスタグラムを活用した情報発信は、広く本市の取組を知っていただく良い取組であると思います。
- ・障がいのある児童生徒に対する切れ目のない一貫した指導や支援を充実させるためには一人ひとりの障がい特性や教育的ニーズに応じた「個別の指導計画」を作成し、具体的な目標や指導・支援方法を明確にすることが必要です。また計画した内容を適切に評価し、上方、下方修正のサイクルを回すことも必要です。推進指標からは通常学級における作成率が R 4年度より大きく下回っていますので、一層の取組強化を期待します。
- ・関係機関との連携を図りながら、全ての教員の特別支援教育に関する専門性向上に取り組んでいることは評価できます。特に特別支援学校との連携は、パートナーティーチャー派遣事業の活用もそうですが、日常的な協力・連携体制の構築が必要です。小・中学校、高等学校と特別支援学校の教員がともに学び合い、高め合い、持続可能な関係性の構築に期待します。
- ・施策に関わる具体的な取組が実施されたことを理解することができました。児童の小学校入学に際し、保育所や幼稚園と小学校との連携が重要となってきます。特に特別支援教育においては、こうした「学校間連携」が重要です。子どもの連続した学びを円滑に次の学びの場へとつないでいくため、一層の充実を期待します。
- ・不登校の子どもに対する学習の保障という点で、オンラインによる学習指導の支援は、かなり有効的で必要項目であると考えます。
- ・不登校児童生徒の支援については、教育支援センター（適応指導教室）の開設・運営、支援員、スクールソーシャルワーカー等の人的配置等、積極的に取り組んできたところではありますが、年々右肩上がり不登校児童生徒数は増加しています。

それぞれのケースによって、登校が困難となった要因は様々で、複合的な要因もあると思います。今後の取組に多面的、多角的に分析とありますが、ぜひお願いしたいと思います。

推進指標による、教育支援センターの活用状況は決して多くはありません。また、活用した児童生徒の内、何人が学校生活へ復帰することができているのかと思いました。

学校、家庭、関係機関の連携によるチームで対応していくことで、児童生徒が活動の中で成長し、人と関わる自信や楽しさ、新しい目標に向かってコツコツと挑戦する力が醸成されることを強く願っています。

- ・不登校児童生徒を取り巻く状況が複雑な場合もあります。施策にもあるように、学校復帰だけではなく、将来の社会的自立につなげるため、学校だけではなく、関係するする機関へつなげていくということも大切であると思います。関わりを広げることに困難なケースもあると思いますが、今後の取組に期待します。
- ・学校運営協議会は、学校と地域がビジョンを共有し、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを行うために良い制度です。
特別支援学校の場合、通学範囲が広域で、障がい種によっては全道域となることから、各校では、「エリア・コミュニティ」と「テーマ・コミュニティ」という両方の視点をもった学校運営協議会に取り組んでいます。
活用事例集等、各校でぜひ情報を共有し、地域と共にある学校づくりや、学校運営協議会をとおして、学校運営がより活性化されることを期待しています。
- ・昨年度より市内の全小・中学校がコミュニティ・スクールとなりました。地域と共に進める学校づくり、地域づくりには欠くことができない重要な施策かと思っておりますので、得られた情報をもとに、各校におけるより具体的な取組を期待しております。また、学校は子どもたちの学びの場であることはもちろんですが、地域コミュニティの核となるような場所でありたいとも思っています。
- ・学校運営協議会が全市で導入された初年度にもかかわらず、推進指標で高い数値が表れています。教職員や保護者、地域への説明や推進する体制の整備といった、事前の準備がていねいに行われていたことが、成果の要因であると推察されます。
今後、学校運営協議会で新たに創造された取組の他、これまで各校で積み上げてきた実践の発展型としての取組も行われることが予想されます。全て新しいことに取り組まなければならないということではなく、導入までの自校の取組を基礎としながらそれを整理し、発展・充実へつなげていくという視点も必要です。
- ・また学校運営協議会における具体的な活動は、持続可能なことをゆっくりと創り上げていくという視点も大切であると考えます。学校と地域が **Win-Win** の関係となるような取組ができるような方向を検討していく視点も必要です。学校から地域を見た時に、「地域から何を」そして、「地域へ何を」という視点を持ちながら、各校の学校運営協議会が充実したものとなることを期待します。

- ・早急に「登校」を目指すのではなく、様々な学びの環境を提供し、ステップを踏みながら登校を目指していることは評価できます。
- ・ヤングケアラー支援は、社会的にも大きな問題となっており、中でも本市は、日頃より行政と学校が連携した早期発見・早期対応の協力体制がとられていると思います。継続した取組と関係機関相互の連携機能強化に期待します。
- ・働き方改革について、道のアクションプランⅢでは、「教員一人一人が、『変わってきた』と実感できる働き方改革の推進」が示されています。部活動指導に関わる負担の軽減もそうですが、ICT の活用などによる校務の効率化と役割分担の推進、適切な教育課程の編成・実施などによる学校運営体制の見直しなどによる改善、意識の変容を促す取組、学校サポート体制の充実といった **Action** と具体的な取組についての方向性や取組を促す施策が必要です。
適切な教育課程の編成・実施に関わって、年間標準時数に近づけるため、週2コマの削減を実施した学校があります。その学校では、創出された時間を有効に活用して、週に一日を「ノー会議デー」として設定し、教材準備の時間を確保することにつながっています。現在までの取組と合わせて教職員全員が「自分事」として働き方改革を考えることができるような組織づくりが必要です。
- ・多くの企業や団体と連携した取組が行われていることがわかりました。定員に満たない教室・講座が増えてきているとのことですが、ぜひ各企業・団体と連携し、魅力ある活動が創出されることに期待をしております。
- ・アールブリュット作品展等、障がいを持つ方々が芸術に触れたり、自らが作品を制作する機会が増えてきました。ぜひ、障がいを持つ方々に対する取組も今後ご検討いただき、充実していくことを期待しております。
- ・図書館に関わる点検・評価のページの設定については、適切であると考えます。
- ・特別支援学校、特に知的障がい校に在籍する児童生徒は、校外学習でコミュニティセンターや北洋大学の図書館を利用させていただき、公共施設のマナーを学びながら、図書に親しむ学習を行っています。「出張！図書館！」等、新たな取り組みも検討されているようですので、今後も、誰にとっても優しく、利用しやすい図書館という視点で取組が一層充実されますよう、期待しています。

(4) その他

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>日本版 DBS について教育委員会では議論されましたでしょうか。また、方向性はいかがでしょうか。</p>	<p>現在のところ、教育委員会内部では日本版 DBS について議論しておりません。今後につきましても議論の必要性については、国や道の動向や社会情勢を注視しつつ、慎重に検討してまいります。</p>

【その他御意見】

- ・ 特別な支援や配慮が必要な児童生徒、いじめや自己有用感がもてないことで、不登校となっている児童生徒等、多様なニーズ、状況の子どもたちがいます。その子たちも含め、誰一人取り残すことない「令和の日本型教育」を構築していくためには、学校のみならず、保護者、地域の人々が一体となって、子どもたちの教育活動を支えていくよう、取り組むことが大切です。今後とも本市で暮らし、学ぶ全ての子どもたちのために、どうぞよろしく願いいたします。